

## 山崎恭一議員(共産)

山崎議員 昨年の1万人を超す署名に対し、市は「誤解による署名だ」と貶める発言をした。しかし説明会を繰り返しても不安は解消していない。そのことをどう考えるか。

市教委 市教委としては長時間かけて検討した。地元とも意見が一致した。理解を深めていただくため4回の説明会を持ち、個別窓口も設け、どのように教育が変わるか説明した。「反対だったが賛成に変わった」「誤解が解けた」などの声を聞く。一方「中学生の悪い部分を真似るのでは」「トイレは学年ごとにあるべき」「リセットできない」などの意見もある。

11月7日のフォーラムでいっそうご理解を深めていただければと思う。

山崎議員 反対から賛成に変わった人がいるとのことだが、はじめは分からなかったが、よく分かったら反対に変わった」という人もいる。

大規模の小中一貫校は全国で20数校のみ。グラウンドが小中で2つ、前・後期で3つの例もある。品川で3校目になる八潮学園はグラウンドを2つにしようとしている。宇治市のやり方は全国の教訓から学ばず、乱暴なものだ。

市教委 基本的立場の違いもあるだろう。小中が一緒になる不安は承知している。一緒にしたくない親は2つのグラウンドを求めるだろう。しかし市は1つの学校として機能するものと考えている。発達年齢の差、幅を心配する声も知っている。自尊感情を持ち、頼れる存在になり、思いやりが育つと考える。今後も理解していただく努力をする。

山崎議員 小・中の子どもがそれぞれ思う存分活動できてこそその交流のはずだ。

適正規模について。御蔵山小の過大規模が問題になっている時に、宇治市の方針で大規模校を作るのはいかがなものか。大規模校の弊害をどう考えているか。

市教委 御蔵山小は31学級以上となり、学年で5～6学級になる。発達年齢が低い子どもたちには、大勢で行動する行事の時など危険が生じる。

(仮称)第一小中一貫校は小中それぞれが31学級以上にならず、各学年3～4学級なので適正規模だと考える。

山崎議員 同じ人が1つの答弁の中でこんなに相反することを言えるものか。まるで途中で人がかわったかのようだ。あまりにも不誠実。

トイレの場所も足りない。トイレも手洗い場も年齢ごとに規格が違うはず。洋式、和式はどうなるか？

市教委 トイレの場所は発達段階に応じて組み替えているところだ。

家庭では洋式便器が一般的だが、学年が上がると抵抗がある。概ね和と洋を1:1にと考えている。

山崎議員 中学生のクラブと育成学級の両立は困難では？テニスコートは1面取れるのか？金管バンドとブラスバンドの両立は？緊急車両が入れるようにするとグラウンドがさらに狭くならないか？

市教委 テニスコートは部活の人数にもよるので学校と協議する。金管についても学校と協議する。市としては十分活動できると考えている。

車両進入路は高低差の少ないところに考えているので、グラウンド面積はそれほど減らない。

山崎議員 本来、子どもの活動場所は学校で考えるものだ。しかし今はどこにテニスコートが取れるかも言ってもらえない現状だ。問題にせざるを得ない。グラウンドが広いなら「少ししか減らない」でもいいが、ここは狭いのだ。

安全面はどうか。東門を利用する子どもが半分程度いると思うが、そこは職員室から全くの死角。どう管理するのか？

市 教 委 現在3カ所に防犯カメラを設置。スクールサポーターも設置。「一貫校」でも置く。

山崎議員 東門にも1人サポーターを配置するのか？

市 教 委 現在と同じ体制だ。

山崎議員 この死角の多い学校では、それだけでは危ない。

文科省は「基本は別々の施設。ただし共有もあり得る」と言っている。先進的な学校に次善策でよしとするのはいかがなものか。

市 教 委 グラウンドその他の施設は、「共有できるのであれば、そして支障がないなら有効」とされている。

山崎議員 他の施設はともかく、グラウンドは無理ではないか。衝突事故の危険がある。

効果ばかり言うが、問題も多く、多くの心配事がある。基準は最低を示したものだ。

傍聴記録：宇治小「小中一貫校」を考える会